

2016年度第3四半期 決算説明会 <主な質疑応答>

開催日 : 2017年2月7日

出席者 : 代表取締役専務執行役員 高畑 恒一

執行役員(主計部長) 諸岡 礼二

インベスターリレーションズ部長 田村 達郎

第3四半期実績及び通期見通しについて

各セグメントの状況を踏まえ、通期見通しに対する強弱を教えてください。

非資源ビジネスについて、輸送機・建機事業部門では、リース事業や米国建機レンタル事業が堅調に推移し、11月公表の見通しに対して84%まで進捗している。環境・インフラ事業部門でも、見通しに対して91%まで進捗しており、予定しているEPC案件の収益貢献及び一部資産入替に伴う利益も見込んでいる。従い、両部門の着地は通期見通しと比べやや強含みと見ている。また、メディア・生活関連事業部門についても見通しに対して78%の進捗であり、順調に推移している。これらを踏まえ、非資源ビジネスの基礎収益は2,000億円をやや上回ると見ている。

資源ビジネスについては、基礎収益ベースでは、市況やコスト改善により期初予想▲400億円に対して300億円程度の上振れを見込むと第2四半期決算発表時に申し上げたが、足元の市況価格に鑑みると、更に200億円程度上振れると見ている。

一方、鋼管事業では、市場環境は底を打ったと見るものの、急回復は想定しづらく、資源と鋼管を合わせた基礎収益はプラスマイナス0で着地するイメージである。

第3四半期で計上している一過性損益▲150億円の内容と通期見通しを教えてください。

第3四半期における一過性損益は、チリ銅・モリブデン事業で計上した減損損失を、過年度の減損案件の税効果の戻り益や、爽快ドラッグの売却益などにより一部相殺しているイメージ。通期見通しについては、具体的な数字は申し上げられないが、今後、年度末にかけて船舶、鋼管、TBCなどで減損損失を計上する可能性がある一方、一部案件の売却も予定している。足元の基礎収益の状況に鑑みると、ネットで損失が出たとしても、当期利益の1,300億円は達成できると見ている。また、体質改善コストについては、今期中に大口の案件で使用する見込みは、現時点ではない。

中期経営計画進捗について

中期経営計画終了時の目標の一つであるDER1.1倍を既に達成しているが、次の段階の目標はあるのか。

現中計では、利益と資産入替によるキャッシュ・インの範囲で、成長投資や配当といったキャッシュ・アウトを管理し、更に5,000億円の有利子負債を返済する前提で、中計終了時点で1.1倍のDERとなると見ており、足元のキャッシュ・フローは想定線で推移している。

今後の目標については、これからの議論となるので、現時点でお伝えできることはない。

投資については、計画に沿った進捗となっているのか。また、フリーキャッシュ・フローの見通しを教えて欲しい。

第4四半期で予定している青果物卸売企業の買収を含め、期末にキャッシュ・アウトを見込んでいる案件もあるため、想定線で着地すると見ている。第4四半期単独ではフリーキャッシュ・フローがマイナスとなるが、通期の配当後フリーキャッシュ・フローではプラスになると見ている。

個別事業について

マダガスカルニッケル事業におけるパートナーシップストラクチャーについて、Sherritt との協議状況を教えて欲しい。

現時点で決まったことはないが、3社協調体制でプロジェクトを推進していく方針に変更はない。足元の状況としては、稼働率が上昇してきており、キャッシュ・コストも3.1ドルまで逡減してきている。

ボリビア銀・亜鉛・鉛事業は、市況は上昇しているのに対し、第3四半期単独実績が

▲1億円となった背景は何か。

市況は安定しており操業も順調であるため、通常利益では第2四半期以上の利益が出ている。一方、過去の販売コストを巡る税務訴訟において、税務関連費用を計上した。このため、オペレーションの利益が相殺された格好。尚、本件を以って、これまでの税務関連の係争についてはひとまず整理がついた状況となっている。

チリ銅・モリブデン事業における減損損失の前提と、キャッシュ・コストを改善させるための方策を教えて欲しい。

また、減損損失後のエクスポージャー及び足元の銅価格が継続した場合の利益について教えて欲しい。

足元の操業状況やコスト、今後の鉱体等を踏まえ、事業計画の見直しを行った結果、減損損失を計上している。事業計画の見直しの内容としては、①中長期価格を3ドル/lb前半から3ドル/lb弱に下げたこと、②大規模拡張計画から追加の設備投資を抑制しながら効率性を高め生産量拡大を目指す計画に変更したこと。尚、銅生産量は年間11万トン程度を計画している。キャッシュ・コストを下げるためには、モリブデン実収率の改善と、地質状況を踏まえた掘削を行うことで、全体としてのコストを下げていくのが基本的な考え方である。減損損失により償却費負担が当社持分で20億円程度軽くなるため、生産が順調に立ち上がれば、来期は今期よりも赤字額は減ると見ているが、足元の市況下では黒字化は厳しいと見込む。減損後のエクスポージャーは、約5.5億ドルであり、うち2.5億ドルがプロジェクト・ファイナンスの完工保証である。

鋼管事業における足元の状況と、リグカウントが増加している中、収益の回復に要する時間はどの程度か。

リグカウントは足元 700 基を超えるレベルに達し、米国の油井管市場の在庫も 5 ヶ月分程度に落ちており、需給のバランスは回復傾向にある。価格についても漸く下げ止まってきており、市況は底を打ったと見ている一方で、収益回復時期については、慎重に見ていく必要がある。

メキシコでマツダと協業している完成車製造事業における現状と、今後の見通しを教えてください。

当社として自動車製造分野を強化する方針であり、同事業も生産は順調に推移している。米国の新政権がメキシコの既存投資事業に与える影響については注視の必要があるが、現時点で決まっていることはなく、定量的なインパクトについては申し上げられない。

以上